

令和7年度 こども園 関係者評価

園評価・評価委員最終評価シート

子育てセンターみゅうのおか

こども園（保育園）関係者評価委員会による評価

対象評価： 最終評価

評価日時： 令和 8年 2月 4日（水） 9：30 ～11：30

【こども園（保育園）関係者評価委員会構成】

学識委員 1名 地域委員 1名 保護者委員 2名

【園の教育・保育目標】

ひとみかがやく子～自分がすき、友だちがすき、遊びがすき～

自然の中でこころが動く様々な体験をとおして 一人ひとりが生き生きと遊び 人との関わりの中で お互いの良さを認め合う

【本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した

こども園（保育園）評価の具体的な目標や計画】

「なんだろう？」から深まる興味「おもしろい！」からつながる遊び

【評価基準について】

- 4・・・十分に達成されていた
- 3・・・ほぼ達成されていた
- 2・・・取り組みは見られるが達成が十分ではない
- 1・・・取り組みが不十分であった

項目	園評価		評価委員最終評価	
	評価	評価理由	評価	評価理由（評価委員から）
I. 目標の理解 1. グランドデザインを理解している 2. グランドデザインを意識している 3. 重点目標を意識している 4. 重点目標を意識して取り組んでいる	4	<ul style="list-style-type: none"> ・重点目標は年度末の次年度準備の日に全員で周知をしている。 ・グランドデザインから細かくおろして指導計画を作成することができた。 ・小さい子（0,1,2歳児）にどう教育・保育を下ろしていけばいいか悩んだが、話し合いを重ねる事に3,4,5歳児の遊びにつながりが見えてきた。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の反省で0.1,2歳児クラスの教育・保育の展開の仕方についての課題があげられていたが、今年度は年度はじめに取り組みについて話をしたり、クラスでの話し合いを重ねたりし、常に意識して活動に展開することができた。昨年の反省が活かされている。
II. 教育・保育の計画性と内容 1. 指導計画の作成 2. 環境への配慮 3. 教育・保育活動の実践 4. 計画と実践の評価・反省	4	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関のホワイトボードを活用し、子どもの興味、関心を家庭と共有できた。 ・園で収穫した野菜を使用し、クッキングを行った。大きい子だけでなく、クッキングの様子を近くで見学する、ごっこ遊びをするなど小さい子なりのクッキングの参加ができて良かった。 ・3,4,5歳児のサークルタイムやホワイトボードを活用し、主体的な意見交換ができた。 ・秋～冬にかけてクマ、サルの動物の影響等の理由でやむを得ず、散歩や山登りを中止せざるをえないこともあったが、代替えで、他園と電車に乗って科学館へ出掛けたり、出掛ける地域を変更したりとその都度話し合い安全な場所に出掛けることができた。 ・全体的話し合いの中で見通しを持った大きな活動を早めに計画を立てる事ができた。クラスやフロアの話し合いの中で具体的に教育・保育の内容を詰めていく際に「遊びの展開図」を有効活用し、更にステップアップしていけると良い。 ・環境や活動の時間配分など、学年を超えての縦の職員間の連携やコミュニケーションの必要性を感じた。日頃の環境整備は職員全員でもっと取り組んでいきたい。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・サークルタイムが集会の時間や遊びの中などに自然とできています。生活の中に汎化されている。 ・年長児の行事が野生動物の影響で延期や内容変更となったが、子どもたちは変更にも動じることなく活動を楽しんでいた。予定の変更について保護者、子どもへの説明を丁寧に行い、理解できる工夫をしていたことが良かったと感じる。 ・ホワイトボードの有効活用は良いと感じるが、必要以上に職員が労力を使っていないかと心配になる。教育・保育をしている中iPadの使用が可能で、玄関にモニターがあれば保護者に様子を映し出せるのではと感じる。

<p>Ⅲ. 子どもにとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. あなたらしさが認められる 2. 安心してすごせる生活 3. 自然に触れて心ゆくまで遊ぶ 4. いろいろな人の中で自分を知る 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・行事のコーナー遊び（おまつりごっこやクリスマスなど）にみんなで参加し、楽しむことができた。 ・老人施設への訪問（5歳児）、実習生やボランティアの方たちとの触れ合いを通して様々な人との交流が持てた。 ・サークルタイム（3.4.5歳児）では、友だちの思いを知ったり、気づいたりする機会が増えた。子どもたちからでたやりたい事を教育・保育の中に取り入れることができた。 ・発達支援事業所ひまわりと連携しおひさまグループを始めたことで、配慮が必要な子の特性や対応について学ぶことができた。そこで得た知識やスキルを、今後一層日常生活での支援へと取り入れていきたい。 ・個性豊かな子どもたちの一人ひとりの思いを十分に受け止め寄り添ってきた。配慮が必要な子については、職員の専門知識をより深め、過ごしやすい環境を整えていきたい。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ひまわり交流や中高生のボランティア等色々な人との関わりを楽しんでいた。 ・氷遊び、雪遊び、さつまいものつるでリース作り等自然と繋がる遊びがたくさんできた。
<p>Ⅳ. 家族にとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 気軽に話ができる 2. 教育・保育に参加できる 3. 必要な情報が得られる 4. 教育・保育を通して地域に親しむ 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時、保育者が保護者と子どもの様子をこまめに話したり、相談したりすることが増えた。 ・送迎時サークルタイム（3.4.5歳児）の内容のボードを見て親子間、保育者と保護者との会話が增えた。 ・行事を行った日にリアルタイムに様子が発信できるよう写真の掲示をこまめに行った。 ・ブログの更新を計画的に行ってきた。一方、話題が行事や活動が中心となっている為、今後日常生活についても取り上げていきたい。 ・送迎時、保護者に挨拶をしているつもりでも伝わっていない場面があった。相手に気持ちが伝わる丁寧な挨拶が常にできるよう意識し、実践していく。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が、しっかり挨拶してくれると感じる。誰に預けても安心と感じる。挨拶をしているつもりでも相手は受け取っていない。その違いがあると感じる。 ・職員に挨拶についての注意喚起をするより挨拶についての自己評価を行うと良い。自分自身で振り返る機会を設けると良い。挨拶をする効果を学ぶのか、接遇そのものを学ぶのか研修の目的を選んで参加するのも良い。 ・「声小さい」だけを責めてはいけない。大ききだけでなく大切なのは雰囲気や笑顔である。
<p>Ⅴ. 地域にとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 誰でも親しく訪ねられる 2. 園の内容がよくわかる 3. 困った時に頼りになる 4. 子育てに夢がもてるように 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・親子ひろばの利用者数が増加した。安心して来る方が増えた。 ・地域のボランティアを積極的に受け入れつながりを持つ事ができた。 ・個々の悩み事や困りごとに丁寧に話を聞いたり、アドバイスをしたり親身に対応をした。 ・常に誰が来てても心地よいと思えるように電気を点けておく、温度調整をしておく、整理整頓をしておく等普段から心がけていきたい。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・親子ひろばの利用数は年々増えている。規模が小さいからこそ、のんびり遊びたい方や職員とゆっくり話をしたい方が活用をしている。悩み事や困り事に丁寧に対応をしている。
<p>Ⅵ. 保育者にとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個性がいさされる 2. 快適な職場づくり 3. 生活や遊びの文化が伝えられる 4. 視野を広げて自ら学ぶ 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・職員それぞれの得意を活かし会議の中で計画的に発表し共有したり、クラスの中でも活かすことができた。 ・季節が感じられる園内環境を心がけた。 ・前年度に比べ自ら率先して学ぶことが停滞した。 ・職員の個々の学びの時間や他職員への学びの共有の時間が少なかった。他職員へさらに広がるよう研修報告の時間を工夫する必要がある。 ・子どもたちの作品の飾り方、魅せ方をもっと工夫できると良かった。 ・お互いに意見を伝え合い、認め合う中で、チームとして方向性を決めていく過程を大切にしていきたい。 ・職員の都合で子どもたちを動かしてしまうこともあった。職員が子どもたちが主体的に動けるように発達を学んだり、言葉の言い換えができるような技術を身につけていきたい。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの時間の使い方の見直しは忙しい中難しいと思う。今年度は内部研修、来年度は外部研修等力を入れて学ぶ機会を1年おきに設けていくのが良いのではと思う。 ・人とのコミュニケーションを生業としていく。職員自身相手に伝える術を身に付けること、必要な情報を聞き取ることを意識していけると良い。 ・その年の取り組みに対して職員の満足度が高まる取り組みをしていけると良い。 ・全体を通して園の取り組みに対して良い評価を受けているという部分を職員にフィードバックをしてほしい。